

ごあいさつ

代表世話役 西本 孝

新型コロナウイルスは、変異型のオミクロン株が落ち着いてきたことから、社会生活の正常化を目指して規制が緩和されました。この機会に、感染防止対策を施した上で、3月13日に保全活動を再開しました。その時に様子を、玉野市の藤原淳子さんがまとめてくれました。散歩中の小さな子ども連れの家が、いつもの散歩道に希少な動物がいることを知り、目を輝かせて観察していました。子どもたちは、これからも散歩のたびに推移を見守るといった楽しみが増えたようでした。少しずつ輪が広がっていくことを願っています。

地域の環境を保全するための自然保護活動も、当会としての役割が果たせるように、関係者に働きかけ、一つ一つ成果に結びつけていきたいと思っております。これまでの活動報告と、今後予定されている活動について、現段階の情報をお知らせします。皆さまの参加をお待ちしております。

今後の活動予定

毛無山（新庄村）ササ刈り取り作業（有志による活動）

西本 孝

- 日時：4月17日（日）13時～17時
- 集合場所：毛無山ビジターセンター
- 活動内容：毛無山の8合目付近のブナ林内で、密生したササを刈り取ります。ブナの結実を受けて、新たな芽生えが期待されます。ササを刈り取ることで、明るくなった林床で

多数が芽生えることを願っています。

- 参加希望者の連絡先：
西本 孝：taknishi@js4.so-net.ne.jp
- なお、融雪の状況により、日程が変更されることがあります。参加を希望する方はまず、連絡してください。詳細を連絡します。

総会と自然観察会第21回

橋本智明

- 行事：令和4年度の年次総会と自然観察会
- 日時：6月12日（日）10～15時
- 自然観察会：10～12時
岡山市こどもの森

- 総会：13時～ e-Tam 自然と教育研究所
活動報告と会計報告、情報交換
- 連絡先：
橋本智明 michikusa@mist.ocn.ne.jp

フサヒゲルリカミキリの個体数調査

西本 孝

- 日時：1回目：6月19日（日）10時～
2回目：7月17日（日）10時～
- 場所：蒜山高原の生息地
- 特徴：希少種に指定され、蒜山高原が唯一の生息地。生育環境を守るために、地元自治体がボランティアと山焼きを継続している。

- 活動内容：2015年から継続している毎年2日間の調査を実施する。生息域内の調査区で、発見できた成虫数とユウスゲの株数を数える。
- 連絡先：
西本 孝：taknishi@js4.so-net.ne.jp

中国地方5県交流会（担当は広島県）と第22回自然観察会のお知らせ

- 開催日：
2022年9月24日（土）～25日（日）
- 場所：北広島町八幡高原（広島県）
- 内容：西中国山地での生物多様性保全活動の

- 取り組みを視察する。
- 宿泊：安芸太田町の深入山いこいの村
- 申込：西本まで（締切7月末頃）
- 詳細：決まり次第お知らせします。

ホームページ（移設先）<http://noiokayama.life.coocan.jp>

石川和人

ホームページは、アドレスが変わりました。確認してください。

2022年3月13日（日）晴れ 参加者8名。

現在、国内には46種ものサンショウウオが分布しているそうですが、深山公園には岡山県絶滅危惧Ⅰ類セトウチサンショウウオが生息しています。産卵場所の一つである近世産業遺産「深山用水」は6月の田植え時期に、ため池である「中池」の「ゆる抜き」により一気に増水します。例年、その前に掃除をしていましたが、昨年はセトウチサンショウウオやニホンアカガエルの産卵時期である3月初旬に用水中の落ち葉掃除が行われ、落ち葉と共に卵嚢や卵塊が地上に放置されました。

深山公園の車止めより南側は鳥獣保護区特別保護地区に指定されていますが、落ち葉掃除、除草、剪定、伐採等の都市公園維持管理により年々生物多様性の減少が進んでいます。今回の担当者との話し合いの時に、1～3月は深山用水の落ち葉掃除をしないようお願いしましたが、4月からの掃除に備えて卵嚢の移動が必要になりました。深山用水西側に隣接している以前花菖蒲園で現在は放置されている湿地の隅の水溜りに移す事を提案し、許可されました。その場所は浅く狭いので少し深く広く掘ることをお願いしましたが、叶いませんでした。保護地になると場所を別の用途に使うことになるので作業に制限がかかり、維持管理の支障になると言われたのですが、鳥獣保護区特別保護地区の維持管理をしてほしいものです。

当日は10時に赤松池駐車場に集合の後、用意してくださったバケツや網を持ち、最初に赤松池西側の深山用水からセトウチサンショウウオの卵嚢探しを始めました。昨年の落ち葉掃除の前に6対を確認した場所には水が無く乾燥していて落ち葉掃除は終わっていました。水のある場所に入って落ち葉の中を探していただきましたが、卵嚢は確認出来ず、花木園側に移動しました。

花木園側も、1、2月に気温が低く降水量も少なかったせいか、用水を覗いての確認が昨年16対だったのに今年は1対でした。網で落ち葉の中を探すと6対見つかりました。早速6対を湿地の水溜りに移しました。3、4年後にその場所を故郷として産卵するのを見守りたいと思います。

通りがかった入園者や、家族で遊びに来た幼い姉妹がセトウチサンショウウオの卵嚢やニホンアカガエルの成体やドジョウに目を輝かせていました。

大変な作業をしていただきありがとうございました。

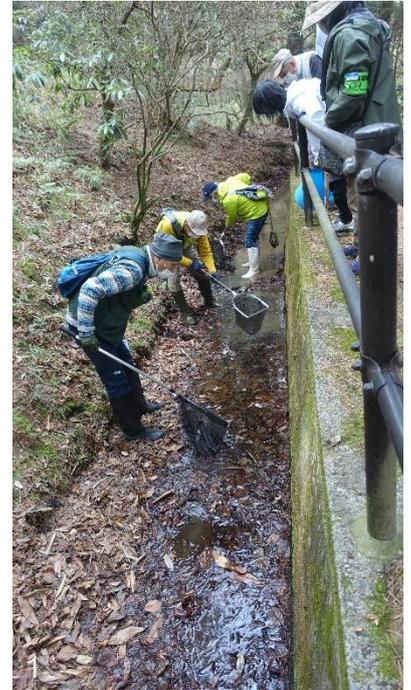


写真1. 用水路で卵塊を探す。



写真2. 見つかった卵塊を湿地の水たまりに移動。



写真3. 通りかかった小さな子どもたちが興味深そうにのぞき込む。写真4. 子どもたちは、指導者の解説に耳を傾けて、いつまでも話を聞いていた。写真5. 一对で一腹の卵塊。写真6. 卵塊を移動した水たまりは、しばらくして水が澄んできた。

